

平成9年1月23日

<街の話題>

巣鴨・旧中山道は、昔も今も大賑わい
えとめいしょざえ

巣鴨庚申堂に、「江戸名所図会」を刻んだ石碑造立

「おばあちゃん原宿」で有名な巣鴨の地蔵通り沿いにある、史跡巣鴨庚申堂（豊島区巣鴨4-35）内に、江戸とその近郊の絵入り地誌『江戸名所図会』（長谷川雪旦・画）に描かれた巣鴨庚申塚の賑わいを刻した石碑が造立され、23日午前、同奉賛会（会長 榎本泰吉氏）による竣工式が行われた。

かつて、地蔵通りは、旧中山道の本街道であり、この巣鴨の庚申塚は、江戸と板橋宿との間にある休息所として、近郷近在に聞こえた名所であった。

今回石碑に刻まれた『江戸名所図会』には、この庚申塚に中山道の立場（休憩所）があり、旅人が茶屋で休息している様子が描かれている。また、広重の浮世絵にも当時の描写があり、付近の賑わいが見られる。

現在では、特に庚申の日ともなると近くの「とげぬき地蔵（高岩寺）」の縁日（毎月4の日）と同様に多くの参拝者がある。庚申塚では、町内会の人たちが、参拝者に対し、季節ごとに趣向をこらした食事を作ってもてなすなど、今も地元住民の信仰が厚い。

江戸の面影を伝える『江戸名所図会』を刻んだ石碑の造立は、この庚申堂を護る人々の念願の賜物。高さ180cm、横幅90cm。インド産の黒御影石に、『江戸名所図会』巻四にある「巣鴨庚申塚」の絵に加えて、由来と世話人一同の名を刻んである。

午前11時からの、竣工式では、天祖神社の宮司による奉納が行われ、関係者らは、喜びの表情を見せていた。

<参考> 『江戸名所図会』

江戸の地誌。江戸神田の町名主斎藤幸雄・幸考・幸成（月岑）の父子3代により完成。1829（文政12）年成立。34-36（天保5~7）年刊。寛政から天保年刊（1789-1844）に至る風俗・行事・景観を絵入りで伝えている。絵・文とも実地検証に基づいており、特に絵は浮世絵師長谷川雪旦・雪提父子によるすぐれたもの。

詳細 巣鴨庚申堂奉賛会